

## 片桐雅義先生の略歴と主要な業績

### 略 歴

- 1944年 3 月 青森県に生まれる
- 1966年 3 月 東京大学文学部第 4 類心理学専修卒業
- 1968年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科心理学専攻  
修士課程修了（文学修士）
- 1971年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科心理学専攻  
博士課程単位取得退学
- 1971年 4 月 東京大学教養学部学生相談所助手
- 1973年 8 月 東京大学文学部心理学研究室助手
- 1978年 4 月 宇都宮大学教養部助教授
- 1990年 4 月 宇都宮大学教養部教授
- 1994年10月 宇都宮大学国際学部教授
- 2005年 4 月 宇都宮大学総合情報処理センター長（～2009年3月）
- 2007年 8 月 宇都宮大学総合メディア基盤センター長（改組施設名称変更による）



### 所属学会

日本心理学会 日本動物心理学会 日本基礎心理学会 日本教育心理学会

### 研究活動

#### （著書）

1. 心理学研究法 6 動物実験（分担執筆） 東京大学出版会 1975 年
2. 心理学の基礎と応用（共著） 福村出版 1985 年
3. 適応行動の基礎過程（分担執筆） 培風館 1989 年
4. 心理学アップデート（共著） 福村出版 1991 年
5. 心理学（共著） 放送大学教育振興会 1992 年
6. 行動科学 I（共著） 放送大学教育振興会 1993 年
7. 実験心理学への招待（分担執筆） サイエンス社 1994 年

#### （論文）

1. 慢性覚醒剤中毒ニホンザルの遅延反応について 精神薬療基金研究年 1972 年 3 月
2. 慢性覚醒剤中毒ニホンザルが示す社会行動の異常 精神薬療基金研究年報 1973 年 4 月
3. Aberrant social behavior induced in monkeys by the chronic methamphetamine administration as a model for schizophrenia.（共著） *Biological Mechanisms of schizophrenia and schizophrenia-like Psychosis*.(Mitsuda, H. and Fukuda, T. (Eds.)) 1974 年
4. 覚醒剤中毒ニホンザルの位置逆転学習における反応潜時（共著） 精神薬療基金研究年報 5 号 1974 年
5. ニホンザルの”色・形問題” II（共著） 動物心理学年報 25 号 1975 年
6. 条件づけと生得的行動傾向 宇都宮大学教養部『研究報告』2 号 1979 年
7. 夜尿症の条件づけ療法に関する一考察 宇都宮大学教養部『研究報告』15 号 1982 年
8. ニホンザルの弁別学習における選択的注意 宇都宮大学教養部『研究報告』16 号 1983 年
9. 回避条件づけ・古典的条件づけ間の移行によるキンギョの反応の変化 宇都宮大学教養部『研究報告』18 号 1985 年
10. キンギョのシャトルボックスにおける移動軌跡の分析－古典的条件づけと回避条件づけの比較

宇都宮大学教養部『研究報告』19号 1986年

11. キンギョの回避学習における随伴性 動物心理学年報 36号 1987年
12. 自己罰行動の分析 宇都宮大学教養部『研究報告』22号 1989年
13. 随伴生に及ぼす期待の影響 宇都宮大学教養部『研究報告』28号 1994年
14. 情報の具体性と随伴性判断 宇都宮大学国際学部『研究論集』2号 1996年
15. Causation and association. (共著) *The Psychology of Learning and Motivation*, 1996, 34, 207-264.
16. Ratings of causal efficacy under constant and changing interevent contingencies. (共著) *International Journal of Psychology*, 1996, 31, 41-41.
17. Effect of cut flowers on physiological and psychological parameters of human being under stress. (共著) *In Towards a new millennium people-plant relationships*. (Burchett, M. D., Tarran, J., and Wood, R. A. (Eds.)) 1999
18. Evaluative Conditioning は特異な学習か 宇都宮大学国際学部『研究論集』11号 2001年
19. 事象間の関連判断のバイアスと錯誤相関 宇都宮大学国際学部『研究論集』13号 2002年
20. 日本人のイメージ-日中大学生の比較 宇都宮大学国際学部『研究論集』14号 2002年
21. 随伴性判断に及ぼす情報のタイプの影響 宇都宮大学国際学部『研究論集』15号 2003年
22. 行政評価における数値指標の問題 宇都宮大学国際学部『研究論集』15号 2003年
23. 評価的イメージ形成における二重過程 宇都宮大学国際学部『研究論集』19号 2005年
24. 障害児における肥満予防に関する実験的研究 (共著) 学校保健研究 47号 2005年
25. 大学生の新聞に対する態度-宇都宮大学生を対象として- 宇都宮大学国際学部『研究論集』22号 2006年
26. Judgments of causal efficacy under constant and changing interevent contingencies. (共著) *Behavioural Processes*, 2007, 74, 251-264.

(シンポジウム等)

1. 第26回国際心理学会議(モントリオール) シンポジウム Contingency Judgment パネリスト  
演題: Ratings of causal efficacy under constant and changing interevent contingencies. 1995年
2. 第69回日本心理学会大会 ワークショップ 因果事象の認知と錯誤・バイアスにまつわる諸研究 パネリスト 演題: 随伴性判断と評価的反応の形成 2005年

## 教育活動

学部における担当科目

「行動システム論」「行動変容論」「行動システム論実験」「情報処理」「視聴覚教育メディア論」

大学院における担当科目

「行動の形成と変容」「国際学総合研究B(地域社会と現代I)」

共通教育担当科目

「行動心理学入門」「認知心理学入門」「心理学実験」「初期セミナー」

